農技セ第2545号
平成22年２月12日

各関係機関長　　殿
病害虫防除員　　殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

平成21年度技術情報について

平成21年度技術情報第２号を発表したので送付します。

平成21年度技術情報第２号

平成22年２月12日
徳　　島　　県

ニンジン斑点細菌病の発生状況,発生生態及び防除上の留意点について

ニンジン斑点細菌病が広範に確認されています。現在のところ,圃場毎の発病率はそれ程高くはありませんが,本日発表の１ヶ月気象予報では,天気は数日の周期で変わり,気温の変動が大きいと見込まれており,適切な管理ができなかった場合,発生増加が懸念されます。現地においては発生状況の把握に努めるとともに,適切な防除指導をお願いします。

１　発生状況

１月下旬(１月25日)の巡回調査では,発病株率は0.2%で平年並であるが,発生圃場率は17.6%で過去10年間で最も高く,２月に入ってからも,診断持ち込みが多い。

２月12日発表の１ヶ月予報では,天気は数日の周期で変わり,気温,降水量とも高いと予想されていることから,トンネル内の換気が適切に行なわれなかった場合,更なる蔓延が懸念される。

	2009	2008	2007	2006	2005	2004	2003	2002	2001	2000	1999	平年
調査地点数	17	11	12	12	11	22	22	26	25	25	22	18.8
発生圃場率	17.6	0.0	8.3	0.0	0.0	13.6	0.0	11.5	0.0	4.0	0.0	3.8
発生程度	4.4	0.0	2.1	0.0	0.0	3.4	0.0	2.9	0.0	1.0	0.0	0.9
発病株率	0.2	0.0	0.1	0.0	0.0	1.4	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.2

２　発生生態

病原(*Xanthomonas campestris* pv. *carotae*)は,短桿状細菌で,極毛を有し,グラム陰性

の好気性菌である。土壌伝染,種子伝染すると考えられるが,不明な点も多い。
　病徴は葉及び葉柄に発生する。初め小葉の先端又は葉縁に少しへこんだ黒褐色でシミ状の小斑点となって現れ,その後,病斑は拡大して,周囲が黒褐色,中央が茶褐色で油浸状となり,周りの葉は黄変する。新葉に発生することは少なく,下位葉に多い。
　11～12月播きのトンネル栽培で,１月中旬頃から発病し始め,２月に入って目立つようになる。

３　防除上の留意点
　天候急変等により,換気が遅れ,トンネル内の温湿度が急上昇した場合に蔓延しやすい。
　斑点細菌病に適用のある農薬は銅剤(コサイドボルドー及びＺボルドー,但し野菜類登録)のみである。